

IBM Power Virtual Server上のRISE with SAP

より高速かつ中断のないSAP ERPの
モダナイゼーションのために設計されました

■ ハイライト

移行を高速化して価値実現を加速します

高可用性とセキュリティの高さが認められたサーバーを提供します

IBM投資プログラムを通じてクラウドERP移行を容易にします

きめ細かなスケーリングにより運用効率の向上を促進します

RISE with SAPは、ERPランドスケープをモダナイズし、クラウドへの移行を促進します。成果重視のサービス、SAP S/4HANA上のクラウドERP、および企業の運用モデルの変革に役立つ各種主要プラットフォームを組み合わせています。ただし、クラウドERPソリューションへの移行は複雑です。2024年のASUG調査によると、SAP S/4HANAを使用している回答者の約46%が、段階的な移行プロセスと既存のビジネスの複雑さにより、変革に予想よりも時間がかかり、リソースを大量に消費したと回答しています。¹

クラウドERPへの移行を加速するため、SAPはRISE with SAP on IBM Power Virtual Serverを提供します。このソリューションは、2025年第2四半期にリリース予定です。Power Virtual Serverは、アプリケーションとデータベースを現在使用しているのと同じハードウェア・アーキテクチャ上に維持することで、RISE with SAP へのシームレスな移行を促進します。このアプローチにより、レジリエンスとセキュリティに優れたクラウド・プラットフォーム上で、RISE with SAPへの移行がより迅速かつシームレスに実現します。

移行を高速化して価値実現を加速しますSAP S/4HANAへの移行には、平均で1.5年かかります。¹SAP ERPワークロードをオンプレミスのIBM PowerからPower Virtual Serverに移行することで、リスク・プロファイルが大幅に削減されます。また、他のクラウドでのPowerからx86環境への異機種間移行と比較して、移行時間を最大で15～25%短縮するのにも役立ちます。² このサービスは、[SAP S/4HANAを90日以内にオンプレミスのIBM Power Systemsからクラウドに移行するように設計されています](#)。³ 両環境間のアーキテクチャの一貫性とIBM Powerプロセッサのコンピューティング・パフォーマンスにより、移行プロセスにかかる時間を短縮します。

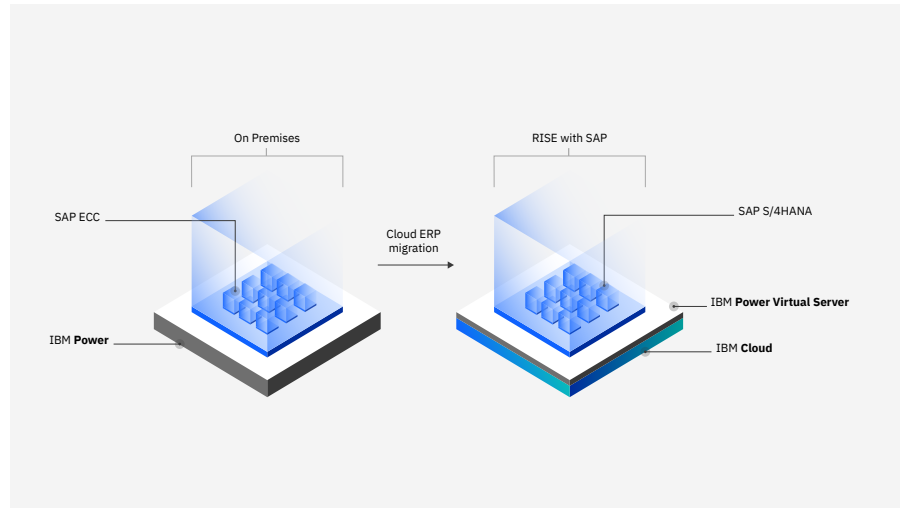


図1：RISE with SAP on IBM Power Virtual Serverへの移行を加速

さらに、RISE with SAP on IBM Power Virtual Serverをお使いのお客様とIBM ビジネス・パートナーは、IBM Transformation Suite for SAP Applicationsにもアクセスできるようになります。IBMと業界をリードするサプライヤーのソフトウェアとサービスをひとまとめにし、SAPランドスケープの評価、データとコードの移行、コード分析、テストを加速するソリューションです。



高可用性とセキュリティの高さが認められたサーバーを提供します

SAP ERPプラットフォームは、重要な財務および運用プロセスを実行します。これらのプラットフォームをクラウドに移行する場合、高いシステム可用性と優れたデータ保護機能が不可欠です。IBM Powerサーバーに組み込まれた冗長性とセキュリティは、機密データを処理するビジネスクリティカルなアプリケーションを実行するように設計されています。2023年のITICサーバー信頼性レポートでは、37種類の垂直市場セグメントにわたる1,900人の幹部クラスのエグゼクティブの93%が、IBM Powerには99.9999%以上の可用性があると評価しました。³これは、すべてのSAP認定サーバーの中で最高の可用性評価です。

PowerサーバーのハイパーバイザーであるIBM PowerVMは、インフラストラクチャー・スタックのファームウェアに組み込まれています。この緊密な統合により、優れた分離が実現し、他のハイパーバイザーを使用するSAP認定クラウドと比較して、2020年以降にNISTによって報告された共通脆弱性と露出（CVE）が6分の1以上に減少しています。⁴さらに、IBM Power10サーバーには透過的なメモリー暗号化が組み込まれており、誰かがサーバーに物理的にアクセスした場合でも、SAP HANAデータを不正アクセスから保護します。

SAP ERPデータをPower Virtual Serverに移動したら、IBM Cloudプラットフォーム・サービスを使用して、SAPと選択した非SAPデータ・ソースを接続するAI搭載サラウンド・アプリケーションを組み込むことができます。データがIBM Cloud、SAP BTP、またはオンプレミスのPower Virtual Serverのどこに保存されているかに関係なく、データが存在する場所の近くでAIソリューションを柔軟に実行できます。これは、IBM Graniteモデル、SAPモデル、独自のモデル、およびIBM watsonxやSAP BTPなどのプラットフォーム上のオープンソース・モデルを組み合わせることで実現できます。

IBM投資プログラムを通じてクラウドERP移行を容易にします

SAPワークロードをクラウドに移行することは、汎用ワークロードを移行するよりも複雑で、長いタイムライン、高コスト、SAPと非SAPアプリケーションの連携などの課題があります。これらの問題に対処するため、IBMでは[RISE with SAP on Power Virtual Server向けのカスタマイズされた投資プログラム](#)を開始します。このプログラムは、システム・インテグレーターまたはパートナーによる初期段階の技術評価をサポートします。また、非RISE（SAPおよび非SAP）ワークロードのクラウドへの移行を容易にし、クラウド移行プロセスを支援します。

きめ細かなスケーリングにより運用効率の向上を促進します

クラウドでSAPランドスケープを拡張する場合、Power Virtual ServerはRISE with SAP向けのカスタマイズされたオプションによってさらに別のメリットを提供します。通常、他のクラウド・プラットフォームでは、SAP HANAのサイズが6 TBを超えると、認定プロファイル全体のメモリー増分は1 TBよりはるかに大きくなります。ただし、Power Virtual Serverのすべての仮想化インスタンスでは、1 TBのきめ細かな平均メモリー増分にアクセスし、単一ノードで最大32 TBまで拡張できるため、4つのノードで最大128 TBまでスケールアウト可能です。この機能により、必要以上の容量やパフォーマンスでシステムを不必要にプロビジョニングする必要がなくなり、追加コストが削減され、SAP S/4HANAを実行するための日常的な運用が簡素化されます。

Powerサーバー上でSAPランドスケープを実行している企業にとって、IBM Power Virtual Serverは、RISE with SAPへの高速で中断の少ないパスを提供します。オンプレミスとクラウド環境間のアーキテクチャーの一貫性を保ちながら、クラウドERPのモダナイゼーションを加速します。クラウドに拡張されたPowerプラットフォームの実証済みの信頼性とセキュリティにより、ビジネス・クリティカルなアプリケーションを信頼性を持って組み込み、実行し続けることができます。さらに、カスタマイズされた投資プログラムにより、RISE with SAP on Power Virtual Serverへの移行が容易になります。

RISE with SAP on IBM Power Virtual Serverの詳細については、IBM営業担当員またはIBMビジネス・パートナーにお問い合わせいただくか、ibm.com/jp-ja/cloud/rise-with-sap?contactmoduleをご確認ください。

1. SAP S/4HANA導入の現状：トレンド、メリット、課題、ASUG Research、2024年7月28日。
2. IBMが実際の移行プロジェクトでお客様から得たフィードバック（盲検化された調査）によると、Power8以降の世代のシステムでは最大15～25%の時間が短縮されました。
3. SAP S/4HANAをPowerオンプレミスからPower Virtual Serverに移行する際のSAPランドスケープでのオンボーディング顧客に関するIBM社内モデリングに基づく推定値。ネットワークのインテグレーションとテストにおいて、お客様とのコラボレーションを前提としています。ITIC 2023グローバル・サーバー・ハードウェア、サーバーOS信頼性レポート、Information Technology Intelligence Consulting社、2023年8月／9月。
4. NIST脆弱性データベース記録（2024年11月24日）によると、2020年以降、IBM PowerVMのCVEは他のSAP認定クラウドのハイパーバイザーと比較して6分の1に減少しています。

© Copyright IBM Corporation 2025

2025年1月、アメリカ合衆国で制作

© Copyright IBM Corporation 2025. IBM、IBMのロゴ、IBM Cloud、IBM watsonx、Power、PowerVM、およびGraniteは、米国およびその他の国または地域におけるInternational Business Machines Corporationの登録商標です。その他の製品名およびサービス名は、IBMまたは他社の商標である場合があります。IBM商標の最新リストは、<https://www.ibm.com/jp-ja/legal/copytrade>でご確認いただけます。

本書は最初の発行日時点における最新情報を記載しており、IBMにより予告なしに変更される場合があります。

IBMが事業を展開している国または地域であっても、特定の製品を利用できない場合があります。

示されている例は、説明のみを目的として提供されています。実際の結果はお客様の設定や条件により異なるため、一般的に期待される結果を提供するものではありません。

IBM製品およびプログラムを使って他社製品またはプログラムの動作を検証する場合は、お客様の責任で行ってください。IBMは、他社の製品やプログラムに責任を負いません。

本書の情報は「現状のまま」で提供されるものとし、明示または暗示を問わず、商品性、特定目的への適合性、および非侵害の保証または条件を含むいかなる保証もしないものとします。IBM製品は、IBM所定の契約書の条項に基づき保証されます。

ITシステムや製品は完全に安全であると捉えるべきではなく、不適切な使用やアクセスを防止する上で完璧な効果のある、製品、サービス、セキュリティ対策は1つもありません。IBMでは、いずれの当事者による不正行為または違法行為によっても、いかなるシステム、製品もしくはサービスまたはお客様の企業に対して影響が及ばないことを保証することはありません。

IBMの計画、方向性、指針に関するステートメントは、IBMの独自の裁量により、予告なく変更または撤回される場合があります。将来の潜在的製品に関する情報は、一般的な製品の方向性を概説することを目的としており、購入の決定はこれに依存するべきではありません。将来の潜在的製品に関する情報は、資料、コードまたは機能の提供を確約、保証または法的に義務付けるものではありません。将来の潜在的製品に関する情報は、いかなる契約にも組み込まれるものではありません。IBM製品の将来の機能の開発、リリース、およびその時期は、IBMの裁量に基づいて決定されます。

